

令和7年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月3日実施)	総合評価 (3月25日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	<p>①②STEAM 教育研究推進校として、これまでの取組を踏まえ、教科等横断的な学びや探究的な学びの深化を図り、全学科の生徒の能力を伸ばさせる教育をさらに推進する。</p> <p>②教育課程の共通化をいかし、専門学科の生徒の学びの深化を図る。</p> <p>③外国につながるの ある生徒への支援体制を強化する。</p>	<p>①②STEAM 教育研究推進校として、これまでの取組を踏まえ、教科等横断的な学びや探究的な学びの深化を図り、全学科の生徒の能力を伸ばさせる教育をさらに推進する。</p> <p>②教育課程の共通化をいかし、専門学科の生徒の学びの深化を図る。</p> <p>③外国につながるの ある生徒と他の生徒との交流を図る。</p>	<p>①教科等横断的な学びや探究的な学びによって培った能力を活用する教育活動を実践する。</p> <p>①②授業研究期間を設け、教科等横断的、探究的な学びをテーマとした授業研究を行い、共有していく。</p> <p>①②英語の外部検定試験の利用方法について周知を図ることにより、受検を推奨する。</p> <p>③多文化共生教育推進チームを中心に多文化教育コーディネーターや学習支援員と連携、協力しながら必要な支援を企画、運営する。</p> <p>③CEMLA スクール主幹校として、運営協議会参加校と連携しながらスクールの活性化に努める。</p> <p>③YAEI アクト部を中心に外国につながるの ある生徒が他の生徒と交流できる企画を計画し、運営する。</p>	<p>①②生徒による授業評価1、2回目共に、教科等横断的の実現の項目の「肯定的な回答」の回答率が70%以上になったか。</p> <p>①②探究活動における外部発表会(コンテスト)等の参加人数が1、2年次で120人以上参加したか。</p> <p>①②生徒による授業評価を各科目で細かく分析し、授業改善に活用できたか。</p> <p>①②英語の外部検定試験の生徒数を調査し、全体の状況を把握できたか。</p> <p>①②英語の外部検定試験を利用した大学入試の受検者の推移を分析し、校内での外部検定試験の実施を検討することができたか。</p> <p>③多文化共生教育推進チームを中心に、担任、部活顧問等の教職員や活動に興味のある生徒が、CEMLAスクールに関わることができたか。</p> <p>③国籍に関わらず生徒が広く交流する企画を実施することができたか。</p>	<p>①②生徒による授業評価教科等横断的の実現の項目の「肯定的な回答」1回目は72%、2回目は73%だった。</p> <p>①②探究活動における外部発表会等の参加人数は、1、2年次で281名(72%)であった。</p> <p>①②生徒による授業評価を各科目で分析し、学校全体で共有した。</p> <p>①②英語の外部検定試験の受検者は2年次で多くの生徒が受検している。普通科2年次の受検率は49%だった。大学入試での利用者数は58名だった。</p> <p>③関係機関と連携しながらCEMLA スクールの運営を滞りなく進めることができた。本校生徒がボランティアとして参加した。</p> <p>③弥栄ワンダーラボやWE FES 文化の部では、外国につながるの ある生徒と弥栄アクト部が協力しながら参加し、交流を深めることができた。</p>	<p>①②組織的に授業改善につなげていくため、新しい校内体制を構築していく。</p> <p>①②コンテスト受賞結果が振るわなかった。授業の目標設定を検討していく。</p> <p>①②分析結果で共有した内容を、授業改善に生かす。</p> <p>①②英検の利用方法、対策を実施している。教科だけではなく、学校全体で外部検定試験について周知していく。校内実施については引き続き検討していく。</p> <p>③次年度に向けての計画と引き継ぎを行い、引き続きCEMLA スクールの組織的な運営を行う。</p> <p>③より多くの生徒が交流できるような企画を計画し、広く参加を呼びかける。</p>	<p>①②STEAM 教育研究推進校として、教科等横断的な学びの深化を図り、引き続き全学科の生徒の能力を伸ばさせる教育を推進して欲しい。</p> <p>①②英語の外部検定試験の普通科2年次受検率が49%に達したことは、生徒個々の進路希望に対応した進路指導として評価できる。更に受験者数を増加させていきたい。</p> <p>③CEMLA スクール主幹校として、各所と連携し円滑な運営をすることができた。</p> <p>③弥栄ワンダーラボ等を通して外国につながる生徒と他の生徒と交流できる企画を実施することができた。</p>	<p>①②授業評価によって、教員個人や各科目での分析を実施することができた。探究的な学びの推進、教科等横断的な学びの推進により教育課程の深化を図る。</p> <p>①②英語の外部検定試験の全体の状況が把握できた。全体の状況把握を引き続き行い分析し、個々に応じた進路指導につなげていく。</p> <p>③引き続きCEMLA スクールの円滑な運営に努める。また、生徒ボランティアの参加を呼びかける。</p> <p>③多文化エンカウンターパーティーや弥栄ワンダーラボ等を企画し、生徒間の交流を更に進めていく。</p>
2	生徒指導・ 支援	<p>①生徒が主体的に考えて、行事を企画、運営できるようにする。</p> <p>①「SAGM Synergy」の理念をWE FESに拡充し、内容の精選を促進する。</p> <p>①部活動において、指導体制の確立を図り、文化部、運動部ともに普通科と専門学科の生徒が融合した活動を支援し、実績を高める。</p> <p>②教育相談コーディネーター、SC、SSW との連携を密にし、教育相談体制をさらに充実する。</p> <p>③交通安全講話や春秋の交通安全デー、自転車ヘルメット着用や自転車点検等の交通安全教育活動を充実する。</p>	<p>①生徒主体で活動が行える実行委員会形式を確立することができたか。</p> <p>①「SAGM Synergy」の理念をWE FESに拡充、精選を図ることができたか。</p> <p>①部活動において学科融合型の相乗効果が得られ、部活動の満足度を向上することができたか。</p> <p>②研修を通して職員との理解を深めることができたか。</p> <p>③交通安全に関する各啓発活動をより充実することができたか。</p> <p>③ヘルメット着用率をあげることができたか。</p>	<p>①生徒が主体的に考えて、行事を企画、運営できるようにする。</p> <p>①「SAGM Synergy」の理念をWE FESに拡充し、内容の精選を促進する。</p> <p>①部活動において、指導体制の確立を図り、文化部、運動部ともに普通科と専門学科の生徒が融合した活動を支援し、実績を高める。</p> <p>②教育相談コーディネーター、SC、SSW との連携を密にし、教育相談体制をさらに充実する。</p> <p>③交通安全講話や春秋の交通安全デー、自転車ヘルメット着用や自転車点検等の交通安全教育活動を充実する。</p>	<p>①生徒主体で活動が行える実行委員会形式を確立することができたか。</p> <p>①「SAGM Synergy」の理念をWE FESに拡充、精選を図ることができたか。</p> <p>①部活動において学科融合型の相乗効果が得られ、部活動の満足度を向上することができたか。</p> <p>②研修を通して職員の教育相談における理解を深めることができたか。</p> <p>②教育相談コーディネーターを中心に早期発見、対応や情報共有ができたか。</p> <p>③交通安全に関する各啓発活動をより充実することができたか。</p> <p>③ヘルメット着用率をあげることができたか。</p>	<p>①生徒主体の行事实行委員会は確立できたが、企画・運営を教員が支援した場面が多々あった。</p> <p>①WE FESの発表や創作等の成果に各学科の特色が反映され「SAGM Synergy」の理念が拡充した。</p> <p>①12月に実施した生徒への部活動アンケート結果における満足度(5段階評価)は、4.09で、昨年度より0.7ポイント上昇した。</p> <p>②職員研修はできていないが生活グループを中心に、ケース会議を開くことにより、教育相談における理解を深めた。早期に対応できるように、各年次や管理職と情報共有を行った。</p> <p>③交通安全講話、交通安全デー・週間、下校指導の啓発活動を実施した。</p> <p>③ヘルメット着用率については、微増であった。</p>	<p>①最小限の支援で、生徒が主体となるWE FESを充実させていく具体的な方法を検討する。</p> <p>①「SAGM Synergy」の理念を更に広げていけるように努めていく。</p> <p>①満足度は向上しているが、各部に課題はあるので、改善し更なる向上を目指す。</p> <p>②職員研修の実施を検討していく。不登校気味の生徒が複数いるので、担任や各担当と情報共有を図りながら支援を継続する。</p> <p>③昨年度の自転車事故件数19件に対し、今年度24件と増加している。スケアード・ストレイト等の交通安全教育を行っていく。</p>	<p>①4学科の融合という「SAGM Synergy」の理念の拡充は、本校の教育推進の骨格と考える。継続していただきたい。</p> <p>②4学科設置ゆえの多様な個性を持つ生徒に対して、担任や各担当との緊密な情報共有と外部の専門機関と連携した教育相談のサポート体制を期待する。</p> <p>③交通安全教育については、自転車での事故が毎年起こっていることを踏まえ、様々な取組を実施していることは高く評価できる。引き続き、家庭、地域、学校と連携しながら、推進して欲しい。</p>	<p>①学校行事や部活動で学科融合型の相乗効果があった。</p> <p>「SAGM Synergy」の理念の拡充を継続し、生徒主体の活動を更に行っていく。</p> <p>②生活グループを中心にケース会議を開き、教育相談に関する理解を深めることができた。また、早期対応に向けて、各年次や管理職との情報共有は適宜行われた。</p> <p>③交通安全講話、交通安全デー・週間、下校指導による啓発活動を実施した。事故件数が増加した。スケアード・ストレイトなど、より実践的な交通安全教育を行う。</p>

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月3日実施)	総合評価(3月25日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
3	進路指導・支援	<p>①生徒一人ひとりの才能を伸ばす個別最適な学びの推進により、国公立・難関私立大学への進学をめざす。</p> <p>②困難な状況にも屈せず立ち向かうたくましい弥栄人を育成し、卒業後の姿を自ら描けるキャリア教育の充実を図る。</p>	<p>①上級教育学校の情報収集を行い、生徒個々のニーズに応じた多様な進路情報を提供する。</p> <p>②「総合的な探究の時間」の充実を図り、生徒個々の進路実現を支援する。</p>	<p>①全体の進路説明会に加えて、分野別、学部別説明会等を行い、生徒個々のニーズに応じた進路活動の支援を図る。</p> <p>①教員向け進路研修会等を実施し、学校全体で生徒個々の進路実現に向けた支援の強化を図る。</p> <p>②外部機関等を活用し、体験的な学習、探究の機会の充実を図る。</p> <p>①②キャリア教育、進路活動における「やえいノート」の活用を図る。</p>	<p>①分野、学部別説明会を新たに設定し、生徒個々の進路実現に向けて進路支援を図ることができたか。</p> <p>①教員向け進路研修会を2回開催し、大学入試の情報を得て進路指導力の向上を図ることができたか。</p> <p>②外部機関等の活用によって、体験的な学習、探究の機会の充実を図ることができたか。</p> <p>①②「やえいノート」を活用する場面を多く作ることができたか。</p>	<p>①大学入学共通テスト、総合型選抜や学校推薦型選抜の説明会等を実施した。教員志望の生徒へ向けての講演会を実施した。</p> <p>①教員向けの進路研修会を3回実施した。参加率は1回目20%程度であったが、2、3回目は80%以上の参加があった。</p> <p>②「やえい未来フォーラム」を12月に実施し、外部講師との連携を図ることができた。</p> <p>①②「やえいノート」は現在活用中である。</p>	<p>①選抜試験別の説明会等は実施できたが、分野・学部別の説明会等は更に継続して行っていく。経済・経営や医療系等の説明会を実施していく。</p> <p>①生徒のニーズに合わせた分野別の教員研修会を実施していく。</p> <p>②更に体験的な学習の機会の充実を図っていく。</p> <p>①②理数探究基礎等で作成した成果物を蓄積し、総合型選抜等の受験にも活用できるようにしていく。</p>	<p>①生徒の学習意識や進路意識を醸成し、多様化する受験方式に対応できる計画的な進路指導を推進していただきたい。</p> <p>②キャリア教育、進路活動における体験的な学習の拡充や、「やえいノート」の活用について、可能な限り継続できるように検討して欲しい。</p>	<p>①生徒向けに、教育、経済経営分野の説明会をそれぞれ実施した。他分野の実施も検討していきたい。</p> <p>①教員向け進路指導ツールの使用法の研修を実施した。更なる進路指導力の向上を図ってほしい。</p> <p>②外部講師と連携し、生徒の体験的な学習・探究の機会を図った。新たな外部講師を拡充していきたい。</p>	<p>①生徒のニーズに応じて、より多くの分野・学部の説明会を実施する。</p> <p>①生徒への進路支援の強化を図るため、引き続き様々なテーマで教員研修会を行っていく。</p> <p>②生徒の進路実現のため、より体験的な学習・探究の機会の充実を図っていく。</p>
4	地域等との協働	<p>①地域の小中学校・特別支援学校・大学や博物館等との機動的な連携を図り生徒の自己有用感につなげる。</p> <p>②地域との協働により地域貢献意識の向上を図り地域に信頼される学校づくりをめざす。</p>	<p>①地域の学校等の機関と連携し、生徒が地域と積極的に関わることで視野を広げ自己有用感を育む。</p> <p>②地域の学校等との協働により、開かれた学校づくりを推進する。</p> <p>②学校行事等の情報発信等、広報活動の充実を図ることで、本校の特色と魅力、教育活動を周知する。</p>	<p>①地域の公民館、特別支援学校、大学等との連携を深め、地域に貢献する活動に取り組む。</p> <p>①生徒の活動を通して、小中学校、公民館等の地域ボランティアとしての関わりを増やすよう努める。</p> <p>②本校の教育活動の周知をホームページやポスター等で計画的に行い、本校の魅力と特色をアピールするために、行事の報告等を適宜掲載し、ホームページによる情報発信の充実を図る。</p>	<p>①地域の公民館、特別支援学校、大学等との連携やボランティア活動に取り組めたか。</p> <p>①小中学校、公民館等と生徒の活動による地域貢献活動が実施できたか。</p> <p>②速やかにかつ適切に本校の魅力と特色を発信するために、ホームページの更新頻度を上げられたか。</p> <p>②学校広報活動を積極的に展開するために、メディア等による学校紹介の機会を逃さずとらえたか。</p>	<p>①吹奏楽、合唱、ダンス、生活デザイン、軽音楽等の部活動が公民館等と連携し地域に貢献した。</p> <p>①小中高の児童・生徒による地域貢献活動(朝の挨拶運動)を2回計画し1回実施(1回は雨天中止)した。</p> <p>②行事ポスターや、学校説明会の情報を速やかに学校ホームページに掲載することができた。</p> <p>②メディア等に学校紹介の機会を積極的に展開することはできていない。</p>	<p>①公民館や特別支援学校等の他にも、大学との連携を図っていく。</p> <p>①来年度も小中学校での生徒による地域貢献活動を推進していく。</p> <p>②よりの確かな情報掲載やホームページ更新に努める。</p> <p>②学校紹介を積極的に行えるように、多様な情報媒体を活用して広報する。</p>	<p>①小中学校、特別支援学校、大学等との連携を図り生徒の自己有用感につながっていることは良いことである。地域に信頼される学校づくりに邁進して欲しい。</p> <p>②本校の特色をアピールするために、よりの確かな情報掲載やホームページ等の更新について引き続き取り組んでいただきたい。</p>	<p>①地域と交流して、貢献することができた。引き続き計画的な地域交流を図ってほしい。</p> <p>②情報を学校ホームページに掲載することができた。メディア等に学校紹介を行うことが少なかった。</p>	<p>①地域等と機動的な連携を図り、生徒の自己有用感につなげていく。</p> <p>②学校の特色ある活動を、速やかにかつ積極的に広報できるように、地域広報誌やSNS等を活用していく。</p>
5	学校管理 学校運営	<p>①広い敷地を有効活用できる環境の整備を進める。</p> <p>②防災教育・安全教育の組織的推進を図る。</p> <p>③事故・不祥事防止を徹底する。</p> <p>④働き方改革を進め、教職員の資質向上に努める。</p>	<p>①効果的な教育活動及び防災の観点から施設、設備の充実を図るとともに校内美化を推進する。</p> <p>②本校周辺や通学路の防災上の特徴をとらえ、実践的な防災対策を進める。</p> <p>③不祥事ゼロプログラムにおける目標及び行動計画を意識し、事故・不祥事防止に努める。</p> <p>④組織的な学校運営と校務の効率化を進め、長時間勤務を是正する。</p>	<p>①不要物品の廃棄、定期的な清掃の徹底により校内の美化を推進する。</p> <p>①教育活動に必要な環境整備を行う。</p> <p>①次年度のオフィス改善に向けて本校にふさわしい計画を立てる。</p> <p>②災害時に生徒自身で考えて行動できるような防災教育及び訓練を行う。</p> <p>③事故・不祥事防止の研修を通して、不祥事の防止を徹底するとともに、若い職員も含め同僚性を高め、風通しの良い職場づくりに取り組む。</p> <p>④ICTを活用し、タイムマネジメントの視点を持って業務を遂行する。</p>	<p>①規定の手続きに従って確実に不要物品の廃棄を行い、校内美化を徹底することができたか。</p> <p>①校内のICT環境を整備し、機器を適切に管理することができたか。</p> <p>①職員室の環境を整え、効率的な業務ができるようなオフィス改善計画を立てることができたか。</p> <p>②生徒及び教職員の防災や安全に対する意識を高める防災訓練を実施することができたか。</p> <p>③職員研修を実施し、不祥事の未然防止に取り組むことができたか。</p> <p>③風通しの良い職場づくりにするために、速やかな報告、連絡、相談体制を構築することができたか。</p> <p>④長時間勤務者の割合が前年度と比較して減少することができたか。</p>	<p>①大掃除等の機会をとらえて不要物品や老朽物品の廃棄を行った。</p> <p>①ICT支援員やICTサポーター等を活用しつつ、校内のICT環境を整えた。</p> <p>①オフィス改善計画については、基本的な枠組みを確認し、計画することができた。</p> <p>②生徒対象、教職員対象の防災訓練を年5回実施した。非常時の動きについて確認し、希望生徒対象にARを使用した訓練を行った。</p> <p>③職員研修を12回実施した。必要に応じて臨時で研修を実施した。</p> <p>③速やかな報告、連絡、相談体制は構築しつつある。</p> <p>④長時間勤務者延べ人数は2月末時点で80時間以上は6人から3人、45時間以上は39人から36人に減少している。</p>	<p>①不要物品の廃棄、老朽物品の更新を行うことができた。</p> <p>①ICTを活用した授業実践ができるようにしていく。</p> <p>①来年度のオフィス改善をととして職員室の環境改善に努めていく。</p> <p>②DIG訓練等、様々な形の訓練を導入し、防災に対する実践的な意識を高めていく。</p> <p>③継続して研修を行い、不祥事防止に取り組む。</p> <p>③職員の判断で、報告等が遅いケースがある。引き続き職員に速やかな報告等を求めていく。</p> <p>④タイムマネジメントの視点を持って業務を計画し、組織的・効率的に業務を遂行し長時間勤務者を減らしていく。</p>	<p>①不要物品の廃棄、老朽物品の更新については、適宜適時に予算を勘案しながら施設整備の充実を継続していただきたい。</p> <p>②防災教育・安全教育の組織的推進を図るため、積極的に取組まれていることは高く評価できる。今後、地域との連携も視野に入れながら実施できるよう努力して欲しい。</p> <p>③教職員が多様化する中で、事故・不祥事防止に取り組んで欲しい。</p> <p>④長時間勤務者の減少は教職員の意識向上の現れである。タイムマネジメントの視点で業務を推進していただきたい。</p>	<p>①定期的に不要物品の廃棄、老朽物品の更新を行うことができた。残っている物品について、整理していきたい。</p> <p>①ICTを活用する場面を増やすことができた。更に利活用できるようにしていく。</p> <p>②従来の防災訓練の他、新しい訓練を取り入れ、実践的な訓練を行うことができた。実践的な訓練を引き続き行っていく。</p> <p>③報告、連絡、相談体制は構築できてきた。初動を意識できるようにしていく。</p> <p>④長時間勤務の職員が減少した。80時間以上の職員をなくしていきたい。</p>	<p>①計画的な不要物品廃棄を行っていく。オフィス改善に伴う各部屋の環境改善に努める。</p> <p>①研究グループを中心に、ICTの利活用について更に進めていく。</p> <p>②基本的な防災訓練とともに、ICTを活用した新しい訓練を生徒が経験できるように、取組を進める。地域防災活動にも参加することを検討する。</p> <p>③職員間のコミュニケーションを大切にできる職場環境づくりをしていく。</p> <p>④常に業務計画を確認しながら遂行していく。</p>